

外食・中食 調査レポート

朝食市場 ～“セキアサ族”の減少と購入先業態の変化～

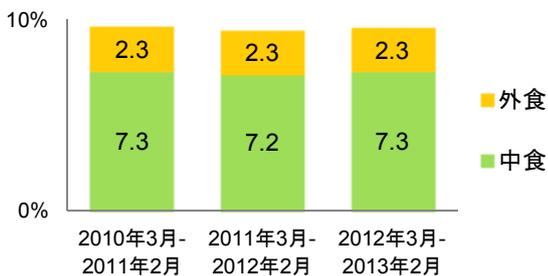


【東京、2013年4月26日】1日の始まりに朝食を摂ることは健康の基本とも言われている。しかしながら、平成23年度国民健康・栄養調査(厚生労働省)によると、朝食の欠食率は男性14.4%、女性11.1%と、年々増加傾向にあるという。では、外食・中食市場における朝食はどのように変化しているのか。エヌピーディー・ジャパン(株)が提供する外食・中食市場情報サービス『CREST* <http://www.npdjapan.com/service/food.html>』から探ってみる。

■ 朝食の外食・中食利用率は横ばい傾向

図表1は、過去3年間の朝食における外食・中食の利用率の変化である。直近1年において、ある特定の1日(調査対象日)の朝食で外食をした人の割合は2.3%、中食をした人の割合は7.3%であり、過去3年間ほとんど変化はみられない。

【図表1】
朝食 外食・中食利用率



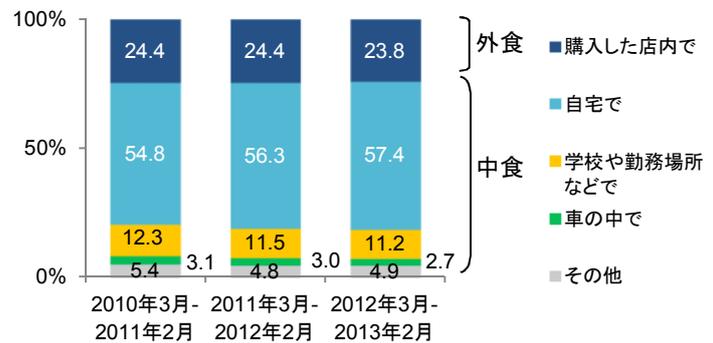
エヌピーディー・ジャパン(株) CREST より

■ 朝食・中食の喫食場所は、自宅が増加

次に、朝食における外食・中食利用者の食事場所をみる(図表2)。外食と定義する「購入した店内で」食事をしている割合は、過去3年間ほぼ横ばいで推移している。一方、中食をみると、その内訳に変化がみられた。「自宅で」(2012年3月-2013年2月度:57.4%)の割合が増加しているが、「学校や勤務場所などで」(同:11.2%)の割合は減少している。「学校や勤務場所などで」は、通勤・通学途中に購入して自分の席などで朝食を済ませる、数年前に話題になったいわゆる“セキアサ族”である。朝食マーケットに生まれたターゲット層の1つが減少傾向にあると言える。

【図表2】

朝食 外食・中食 喫食場所比率



エヌピーディー・ジャパン(株) CREST より

■ 朝食・中食の購入先は、スーパーがトップ

では、朝食・中食利用者は、どのような業態で商品を購入しているのだろうか(図表3)。直近1年では「スーパー」が購入先のトップ(31.7%)であり、そのシェアは過去3年間増加している。一方で、2010年3月-2011年2月度においてトップであった「CVS」のシェアは減少しており(直近1年:28.4%)、朝食・中食マーケットの購入先にも変化があった。

【図表 3】
朝食・中食 購入先業態シェア トップ 5 (%)

| 業態 | 2010年3月 - 2011年2月 | 2011年3月 - 2012年2月 | 2012年3月 - 2013年2月 |
|------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| | スーパー | 29.3 | 30.9 |
| CVS | 31.3 | 29.9 | 28.4 |
| ハンバーガー系 FF | 6.5 | 7.0 | 6.5 |
| パン屋・ベーカリー | 3.7 | 3.8 | 4.3 |
| 牛丼系 FF | 3.0 | 2.9 | 3.1 |

エヌピーディー・ジャパン(株) CREST より

健康意識が高まる中、欠食率の増加傾向が続く朝食マーケット。忙しい朝の時間帯に自分の手間が最小限で済む外食・中食は、消費者に対してもメリットが大きい。このメリットを活かし、欠食者をいかに呼び込むかが、さらなる朝食マーケット拡大のカギとなるかもしれない。

*CREST とは

約 20,000 人／月のサンプル数を誇る、2003 年より開始したサービスであり、外食・中食市場において「いつ、誰が、どこで、何を、どのように食べ、どの程度満足したか」という情報を 1 年 365 日、直接消費者から収集し、データベース化した情報サービスです。

詳細は <http://www.npdjapan.com/service/food.html>

お問合せ

エヌピーディー・ジャパン株式会社
セールス&マーケティング部 小野・高橋
Email: npdjapan.info@npd.com

〒108-0074
東京都港区高輪 3-23-17 品川センタービル 13F
T: 03-5798-7663 / F: 03-5798-7665